

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社  
(以下「ディズニー」という)  
第一回ディズニー・チャンネル放送番組審議会  
議事録

開催日時 : 2003年11月8日(金) 18:30~20:00  
開催場所 : 東京都港区  
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社  
ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナ  
ショナル・ジャパン  
スタジオ・ディズニー会議室

在任審議委員数 : 7  
出席審議委員数 : 7  
出席審議委員氏名 : 加藤 諦三  
木下 美子  
小島 朋之  
中川 真也  
前田 耕作  
柳生 純磨  
湯川 れい子

その他、ディズ : ポール・キャンランド  
ニーからの出席者 (マネージング・ディレクター)  
エディー・カックス  
(バイス・プレジデント/編成部)  
待鳥 雅之  
(コンプライアンス・スーパーバイザー/編成部)

**議案**

- 1) ディズニー・チャンネル放送番組審議会規則について
- 2) ディズニー・チャンネル番組編成について
- 3) ディズニー・チャンネル放送番組について  
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にVHSテープにて配布した。)  
「ハウス・オブ・マウス」  
「キム・ポッシブル」  
「リジー & Lizzie」  
「ボーイ・ミーツ・ワールド」  
「ザ・ブック・オブ・プー」
- 4) 審議会議長互選について

**審議の概要**

- 1) ディズニー・チャンネル放送番組審議会規則について  
待鳥雅之より、ディズニー・チャンネル放送番組審議会規則の説明がなされ、討論審議の結果、出席委員全員より異存のない旨の賛成が得られた。
- 2) ディズニー・チャンネル番組編成について  
次に、エディー・カックスより、ディズニー・チャンネルおよびその番組編成について説明がなされ、下記のとおり意見交換が行われた。  
(以下 印 審議委員からの意見及び質問、 印 ディズニーからの出席者の回答)

深夜の時間帯に再放送を行っているのはなぜか。  
幼児以外の世代の視聴者をも考慮している。

マジカル・ワールド・オブ・ディズニーの中にはアメリカで PG に分類されている作品もあるのではないかと。

ディズニー独自の厳格な基準に基づき、子供達に不適切だと思慮される箇所は削除する等、編集して放送する。

日本の子供達が様々な問題を抱える現代において、ディズニー・チャンネルの開局は大変意義があると考えている。放送基準の厳しさも是非保ってほしい。基準の厳しさを保ちつつ、幅広いターゲット層や時代の変化を考慮する番組作りを目指している。作品を再放送する場合なども時代に合わせて編集箇所に変更を加えていきたい。

アメリカのディズニーの作品の中には、黒人やヒスパニック系の人々が主人公になるものはあるのか。

That's So Raven が代表例。ディズニーでは作品においても、社内においても多様性を重視にしているので、アニメ作品の中にも様々な人種の人物が登場している。

ディズニー・チャンネルでディズニーの短編アニメ・クラシック作品は見られないのか。

1月に放送予定。3月、4月は固定枠にて放送する予定である。ただし、短編アニメ・クラシック作品は、制作された時代背景が異なるため、現代における放送において不適切な箇所が多々見られる。そのため、更なる詳細な審査が必要と考えている。

ウォルト・ディズニー氏が強調していた家族の大切さを番組内でも伝えてほしい。

現代の日本の子供達は、幼児期からディズニーの絵本や映画に親しみ、大人になってからもテーマパークに行くという流れができてきているため、ディズニー・チャンネルに対する期待は非常に大きい。

ディズニー・チャンネルの番組を教育の場でも利用できるのではないかと。

短い英会話番組の開発も念頭に入れている。

ドキュメンタリー・シリーズの放送予定はないかと。

今後、必要に応じて検討したい。

### 3) ディズニー・チャンネル放送番組について

次に、本会議に先立ち各審議委員に配布し、視聴いただいた放送番組について、下記のとおり意見交換が行われた。(以下 印 審議委員からの意見及び質問、 印 ディズニーからの出席者の回答)

キスのシーンの描写など、自分達たちの世代には違和感のあるシーンが見られた。時代意識の変遷も踏まえ、また、ストーリー全体の持つ教育的配慮をも考慮にいれ、登場人物の両親が反対するというストーリーから、時期尚早というメッセージも伝えたいと考え、あえてこのシーンを編集せずに残している。また、思春期の子供達には身近な話題でもある。

ドラマがとてもおもしろいと思った。親が子供に物事の善し悪しをきちんと教える箇所は、日本の親や子供にぜひ見て欲しい。

アメリカで制作された番組の中には、日本の子供には伝わらない文化の違いがあ

と思うが、日本独自の番組を作る予定はあるのか。  
アメリカで制作された番組の中でも、万国共通で共感できる作品が多々あると考えている。また、日本独自の番組も制作を予定している。アメリカ文化を単に押し付けるのではなく、バランスを取りながらローカルな番組制作も大切にしていきたい。

日本のアニメとの共存関係はどのように考えているのか。  
ディズニー・チャンネルのアニメーションには、日本アニメのファンの方にも楽しんで頂ける番組や、認知度の高い作品も含まれているため、多くの方々に受け入れられるのではないかと考えている。

日本人と外国人とでは、笑う箇所にズレがあるのではないか。その点工夫はできるのか。  
多くの場合には一致していると考えているが、一部吹き替えの段階で台本に工夫することを今後検討する必要がある。

ディズニーを日本の文化にどうプラスに取り入れていくかが大切ではないか。  
親子の関係・コミュニケーション等本質的なことが、エンターテインメントを通じて、違和感なく現代の日本社会においても取り入れられるように慎重に検討したい。

プレイハウス・ディズニー(参加型)とは何を意味するのか。  
子供達が単に受身で番組を見るのではなく、直接視聴者である子供達に自らの創造意欲を起させるような内容を取り入れている。

現代の学生は、夜中にテレビを見ていることが多いので、深夜のキム・ポッシブルやリジー & Lizzie の放送は意外に人気が高くなるのではないか。  
検討の結果、キム・ポッシブルについては、現在の深夜 5:00 の枠を深夜 2:00 の枠に変更予定。

シンデレラやファンタジアなどの目玉となる作品は放送するのか。  
数年に一度しか放送されないようなプレミアム作品についても、年間数作品が放映する予定である。

#### 4) 審議会議長互選について

湯川れい子氏より推薦のあった加藤諦三氏が、委員の互選により議長に選任された。

以上をもって本会議は、議案の審議全部を終了したので 20:00 閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。